

株式会社 NAOSO
代表取締役

田中 祐作

田中社長は、『NAOSO』の一番の自慢は「増員力」だと語る。
大きな現場の場合、協力業者の手を借りることが多々あるという社長。
曰く、「協力業者の職人たちは、皆一様に技術力も人間力も高い」のだという。
「30代から50代と年齢は幅広い。でも、皆さん優秀で、高い対応力を持っている。
そんな方々の力を借りることができる点が、当社の自慢なのです」——
仕事を共にする仲間たちへの誇りと感謝を胸に、社長は今日も現場に打ち込むのだ。

**「優秀な協力業者さんに恵まれました。
彼らの存在あっての当社です」**

優秀な職人たちや家族に支えられ 地域を代表する塗装業者を目指す



株式会社 NAOSO

和歌山県御坊市島 306-16



代表取締役 田中 祐作
×
タレント つまみ枝豆

戸建て住宅をはじめ、様々な建物の外壁や屋根などの塗装を手掛けている『NAOSO』。2019年に田中社長一人で個人事業としてスタートし、2021年に法人化を実現した。優秀な協力業者と共に、質の高い工事を納めてきた同社。本日はタレントのつまみ枝豆氏が社長のもとを訪問し、インタビューを行った。

——早速ですが、田中社長の歩みから伺います。

ここ和歌山県御坊市で生まれ育ちました。少年時代は野球に打ち込み、中学校卒業後は全国的に見ても有名な強豪校に推薦で入学したのです。しかし、精鋭の集まりでレベルが高く、頭打ちを感じて野球は高校生で一度終わりにすることにしました。ただ、ずっと野球に没頭してきたので、いざ進路を決めようと思っても何をやって良いのか分からず……。恩師は「次に進む道でレギュラーになれ」と言って下さったのですが、なかなか目標は定まらないままでした。

——打ち込んでいたものから離れて、どうして良いか分からなかったのですね。高校卒業後はどうされて？

工場で3年ほど働いていました。その後、知人から「塗装の仕事をやってみな



いか」と言われて、塗装業界に転身。それが、今につながっています。

——今こうして独立されているということは、このお仕事は打ち込めるものでしたか。

ええ。もともと野球をしていたからでしょうか、身体を動かす仕事は向いていたようです。それに、現場によって仕事内容が違いますし、人と接することも多い仕事。刺激があって、とても面白いと思いました。働き始めた当初は独立するつもりはなかったのですが、打ち込むうちに独立を意識するようになったのです。そうして、10年ほど働いた後、2019年に独立に踏み切りました。

——いざ独立してみても、いかがでしたか。

正直、最初は不安もありました。でも、妻をはじめとした多くの方が応援して下さい、それが力になりましたね。前職

column 躍進を陰で支える存在



の会社とは円満退社だったので、独立後はお仕事を下さるなど、色々のご協力いただきました。

——社長が真面目に取り組んでいたからこそ、皆様応援して下さいました。

ありがたい限りです。現在は、私のほかに従業員が一名おり、現場によっては協力業者さんに依頼しています。皆様、私がおざらに何か言う必要がないくらい、技術的にも人間的にも信頼できる方ばかりで、安心してお任せすることができます。当社の自慢できる点は、こうした優秀な人員を集められる「増員力」です。確かな腕を持った職人ばかりなので、対応力が高く、どんな現場でも納めることができる。それが実現しているのも、人に恵まれたお陰なのだと思えます。

——社長の誠実なお人柄に惹かれて、同じような志を持った職人さんが集まってくるのだと思えますよ。

妻曰く、「昔から不思議と人が寄ってくる」のだそうです。正直、自分一人ではここまで順調に進んでくることはできなかったと思います。いただいたご縁を大切にしていきたいですね。

——経営者となると背負うものが増えますから、周囲の方々の支えがあると心強いですよ。

ええ、本当に。私自身、独立してからは責任感がより一層増しました。お客様に喜んでいただくことを第一に考えて、見えない部分でも決して手を抜かず、納

期通りに納めていく。そのために必要なのは、最高のパフォーマンスを発揮すること。ですから、現場で働く職人さんが働きやすい環境を作るように心がけています。職人さんが最高のパフォーマンスを発揮できれば、その仕事ぶりを見て次の仕事が自然と入ってきます。仕事は最大の営業ですから、どんな現場でも整理整頓をしっかりと、最高のパフォーマンスで仕事に取り組んでいきたいのです。

——素敵な姿勢ですね。これからも、ますます成長していけることでしょうか。

ありがとうございます。ただ、私自身は会社を大きくしようとか従業員を増やそうとかいうことは、あまり考えていないのです。大きくしようとガツガツして、仕事に粗が出てしまうと本末転倒でしょう。大切なことは、確かな仕事でお客様に喜んでいただくこと。目の前の現場を一つひとつ丁寧に納めていく中で、「御坊市で塗装と言えば『NAOSO』だね」と言ってもらえるようになっていくことが理想です。

——誠実な社長らしいお考えですね。そのお考えを是非とも次世代につないでいってほしいところです。今はどの業界でも若手不足が深刻化していますが、次世代への事業継承についてはどうお考えですか。

私には、まだ幼いですが息子がおります。ただ、無理に後を継いでほしいとは思っていません。もし息子が会社を継ぎ

▼対談には、田中社長の奥様も同席して下さいました。独立に際しては事前に社長から相談されたという奥様は、決して反対することなく、むしろ応援していたのだという。現在は経理として社長をサポートしている奥様は、「応援したいという気持ちは、今でも変わっていません」と語る。そんな奥様に対して社長は少し恥ずかしそうにしながらも、「助かってます」と答えた。

▼独立に際しては不安もあったという社長。そんな社長が大きな一歩を踏み出し、その後も着実に歩み続ける陰には、応援し、支える奥様の存在があった。対談の最後に社長は奥様に「これからも安心して生活できるように頑張っていくので、応援よろしくをお願いします」と自身も思いを伝えていた。そんな社長の言葉に笑顔で頷く奥様。夫婦の絆は、未来に歩む力となるのだ。

たいと言ってきたら、まずは他の業界も見てみるよう勧めようと考えています。世界は広いですから、その中で子どもが進みたい道を見つけてほしいですね。その上で「やっぱり継ぎたい」と言ってくれたら、任せていこうと考えています。

(2021年2月取材)

guest interviewer



「社名の『NAOSO』は、「塗り直そう」という言葉から命名したのだそうです。茶目っ気もありつつ、塗装業者さんらしいお名前で、とても良い社名だと思います！周囲の方々に大切にする田中社長であればきっと、地域を代表する塗装業者になれるでしょう」 つまみ枝豆・談